

## 第5回岡谷新校再編実施計画懇話会

日時：令和7年1月27日（月）  
午後6時から午後7時30分  
会場：おかや総合福祉センター  
3階 コンベンションホール

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 県教育委員会挨拶

#### 3 新構成員自己紹介

#### 4 会議事項

(1) 「第4回岡谷新校再編実施計画懇話会」まとめ

(2) グループ別の意見交換

(3) 意見共有と全体討議

#### 5 その他

次回の予定

【日時】 調整中

【場所】 調整中

【内容】 学びのイメージ（素案）の説明と意見交換

#### 6 閉 会

## 新校再編実施計画懇話会開催要綱

### (目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

### (会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

### (構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

### (開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

### 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

## 岡谷新校（仮称）再編実施計画懇話会 構成員名簿

○は新規構成員

区分	氏名	所属等	意見交換グループ
自治体	1 早出 一真	岡谷市長	1
	2 宮坂 享	岡谷市教育長	座長
産業界	3 木下 敏彦	岡谷商工会議所 副会頭	3
	4 山田 昌義	(有) ニシキ精機 代表取締役社長	4
学識 経験者	5 広瀬 啓雄	公立諏訪東京理科大学 副学長	御欠席
	6 岩間 英明	松本大学人間健康学部スポーツ健康学科 教授	2
	7 坪谷 ニュウエル 郁子	東京インターナショナルスクール 理事長	御欠席
地域	8 遠藤 美千子	(株) エー・トゥー・ゼット 代表取締役社長	1
	9 太田 博久	(株) 太田屋 代表取締役社長	2
	10 笠原 新太郎	笠原書店 代表取締役社長	4
	11 竹花 顕宏	諏訪地域振興局 局長	御欠席
同窓会	12 山本 美保子	岡谷東高等学校同窓会 会長	2
	13 林 秀徳	岡谷南高等学校同窓会 副会長	3
PTA	14 田口 あゆみ	岡谷東高等学校PTA 会長	1
	15 共田 武生	岡谷南高等学校PTA 会長	4
	16 笠原 康弘	諏訪PTA連合会 代表 (岡谷市PTA連合会長)	3
小中学校 関係者	17 小口 貴一郎	諏訪校長会 代表 (川岸小学校 校長)	3
	18 山田 典史	諏訪校長会 代表 (岡谷東部中学校 校長)	1
	19 瀬志本 進	花田養護学校 校長	2
再編 対象校	20 齋藤 礼央	岡谷東高等学校 生徒代表	4
	21 大坪 千紗	岡谷東高等学校 生徒代表	2
	22 ○ 松原 康恭	岡谷南高等学校 生徒代表	3
	23 ○ 外山 あかり	岡谷南高等学校 生徒代表	1
	24 倉坪 崇之	岡谷東高等学校 校長	3
	25 小宮山 健司	岡谷東高等学校 教職員	1
	26 藤澤 雅道	岡谷南高等学校 校長	2
	27 森澤 太平	岡谷南高等学校 教職員	4

### 事務局

岡谷東高等学校		岡谷南高等学校		高校再編推進室	
奥原 貴彦	教頭・副事務局長	藤澤 幹彦	教頭・事務局長	原 多恵子	主幹指導主事
小宮山 健司		森澤 太平		有坂 清明	主任指導主事 (担当)
中村 龍馬		松本 雄二		土橋 邦彦	主任指導主事 (副担当)
西澤 久美子		奥村 達朗			
		今井 靖			

## 第4回 岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

<b>日時</b>	令和6年11月5日(火) 午後6時～午後7時30分		
<b>場所</b>	おかや総合福祉センター(諏訪湖ハイツ) 大会議室		
<b>出席 (敬称略)</b>	早出一真、宮坂 享、木下 敏彦、山田 昌義、岩間 英明、遠藤 美千子、太田 博久、笠原 新太郎、竹花 顕宏、山本 美保子、林 秀徳、田口 あゆみ、共田 武生、山田 典史(代理:若林 和仁)、瀬志本 進、齋藤 礼央、大坪 千紗、倉坪 崇之、小宮山 健司、藤澤 雅道、森澤 太平(以上21名)		
<b>欠席 (敬称略)</b>	広瀬 啓雄、坪谷 ニュウエル 郁子、笠原 康弘、小口 貴一郎、松原 康恭、 外山 あかり(以上6名)	<b>傍聴</b>	5名
<b>事務局</b>	岡谷南高校	藤澤教頭(事務局長)、森澤教諭、松本教諭、奥村教諭、今井教諭	
	岡谷東高校	奥原教頭(副事務局長)、小宮山教諭、中村教諭、西澤教諭	
	県教育委員会	原主幹指導主事、土橋主任指導主事、有坂主任指導主事	
<b>当日資料</b>	次第、構成員名簿、第3回懇話会まとめ(案)、ここまで出された意見、意見交換テーマ、意見の共有		

### 会議事項

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| (1) 第3回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ | (2) ここまで出された意見のまとめ |
| (3) グループに分かれての意見交換      | (4) 意見の共有          |

### 構成員から出された主な質問・意見(要旨)

#### 会議事項について

- (1) 第3回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ  
資料1～2ページについて事務局から説明。質問、意見なし。
- (2) ここまで出された意見のまとめ  
資料3ページについて事務局(県教委)から説明。質問、意見なし。
- (3) グループに分かれての意見交換  
以下の2つのテーマについて、それぞれ25分で意見交換。  
テーマ1:「岡谷新校でつきたい力、つけてほしい力はなにか」  
テーマ2:「テーマ1で考えた力を実現するために、どのような学校にしたらよいか」
- (4) 意見の共有  
各グループ記録係より意見交換の内容を発表、全体で共有。
  - 1 グループ  
(テーマ1)
    - ・生きる目的、勉強する目的を明らかにし、将来に繋げられる力を育成する。
    - ・将来に向かって意欲をもって学ぶことができる力を育成する。
    - ・周りの人と協調して取り組むことができる生徒を育成する。
    - ・人間性や思いやりを大切にする。
  - (テーマ2)
    - ・既存のものにとらわれることなく新校づくりができたらい。
    - ・地域とのつながりを保ちながら、地域の力をお借りすることが大切。
    - ・生徒が主体的に活動できる場面が多く取り入れられるような学校にできたらい。
  - 2 グループ  
(テーマ1)
    - ・個人の好きなこと、やりたいことをとことん追求できる、個別最適な学びを進めていきたい。
    - ・これからの時代を生き抜くたくましい力、学ぶ力が身につくとよい。
    - ・将来の夢が持てるような大人の成功者と接するような機会を持たせるキャリア教育をすすめる。
    - ・社会とつながる力をつけていきたい。

(テーマ2)

- ・いろいろな選択肢を持たせて多様な学びや、好きなことをとことん追求できる学びをしていくために、単位制の高校がよいのではないか。
- ・地元企業との関わりを活用した探究。(高校は小・中よりもダイナミックにできる)
- ・外国の方々とのふれあい、姉妹都市、留学経験、異文化体験により違いに触れるような仕組みが持てたらいい。
- ・諏訪地域特有のスポーツも活かせる学校が良い。

○3 グループ

(テーマ1)

- ・自分がこうありたいという姿・目標・夢を持つ。その姿と現状の間が課題であり、その課題を解決する力を身に付けたい。そのために必要なのが「アイデンティティの確立」。
- ・トライ&エラーを繰り返すことができる粘り強さを身につけたい。

(テーマ2)

- ・地域の方々を学校に呼び込む、学校から地域に出ていく、これを両輪とした「ひらかれた学校」。
- ・学校という場だけで完結せず、多様な人々と接する場を保障する。
- ・地域を知る先生方がしっかり根付いて支える体制が必要。

○4 グループ

(テーマ1)

- ・進路にあった力や社会で生きる力をつける。
- ・課題解決力が学力につながってほしい。特色を出せる授業編成を望む。
- ・失敗するからやらないではなく挑戦してほしい。失敗から学ぶ経験も大切。大人(教員)もそういう姿を見せることが大切。

(テーマ2)

- ・ミスマッチがあった時に変更できるなど柔軟な選択ができるコース制。つけたい力を付けられるコース、多様なコースがあるとよい。
- ・目標のない生徒がいる中で様々な気づきが得られる仕掛けがあるとよい。
- ・この地域出身の先生に来てほしい。
- ・まとめとして、「多様な選択ができる学校」「チャレンジを認めていける学校」「新たな気づきが得られる学校」。

○座長まとめ

(テーマ1)

- ・「生きる目的、学ぶ目的」をまず自分がしっかり持ち、それが将来につながり、「社会に生きる力」を培うような力をつけてほしい。
- ・自分の夢を求めていく「意欲、主体性」。
- ・人間性を育めるような力。
- ・「課題を見つけ、それを解決する力」。成功体験のみならず、失敗やエラーの繰り返しの中から学び、チャレンジを重ねていく力。

(テーマ2)

- ・4グループがまとめたように「多様な選択ができる学校」「チャレンジを認めていける学校」「新たな気づきが得られる学校」。

その他

【次回】

日時：令和7年1月27日(月) 午後6時～午後7時30分

会場：おかや総合福祉センター(諏訪湖ハイツ) コンベンションホール

内容：岡谷新校の学びのイメージに係る意見交換

岡谷新校 再編実施基本計画に係る学校像について（これまでに提出された意見）

\*ゴシックは前回出された意見

	地域協議会からの意見・提案	再編・整備計画【三次】	第4回懇話会までに提出された意見
育てたい生徒像			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の強みを生かして、地元を、長野を、日本を、世界をより良くして平和にすることに貢献できる人材。</li> <li>○ 大学や地域と連携した探究的な学びにより、人と人の中で自ら考え行動できる、地域から愛され、頼りにされる人物。</li> <li>○ 地域を愛し、地域に誇りを持ち、いずれ地元に戻ってきて活躍する生徒を育てたい。地元の良いところをしっかりと伝えることが大切。</li> <li>○ 何か一つ目標を持って頑張った経験のある生徒。</li> <li>○ <b>生きる目的、学ぶ目的をしっかりと持ち、それが将来につながり、社会に生きる力を培うことができる生徒。</b></li> <li>○ <b>自分の夢を求めていく意欲や主体性を持った生徒。</b></li> <li>○ <b>成功体験のみならず、失敗やエラーの繰り返しの中から学び、チャレンジを重ねていく生徒。</b></li> </ul>
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の子どもたちはもとより、探究的な学びや分野最先端の学びが可能な、他地域の子どもたちにとっても魅力的な学校</li> <li>○ 諏訪地域の歴史・伝統についての学び、地域や世界の課題解決を考える学び、文化芸術分野やスポーツ分野など幅広い学びが可能な学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践的な英語力を共通のベースに探究する単位制高校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が自分のやりたいことを選び、それぞれの道に進んでいけるような高校。<b>多様な選択ができる学校。</b></li> <li>○ 地域の学校として、地域との結びつきが強く、多様なニーズに応えることのできる学校。</li> <li>○ 進学や就職など生徒の希望に沿う科目選択や先生方の厚いサポート体制など多様性のある新校にしていきたい。</li> <li>○ 生徒の可能性を伸ばすことができる学校、入学後に様々な面でその生徒に合った教育が受けられ、潜在力を大きく伸ばすことができる学校。</li> <li>○ 地元や他地域からも選ばれる、偏差値による輪切りで選択されることのない特色ある普通科高校。</li> <li>○ <b>新たな気づきを得られる学校。</b></li> <li>○ <b>チャレンジを認めていける学校。</b></li> </ul>
学び・カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の希望がかなえられる多様なニーズに対応した学び</li> <li>○ 諏訪地域の歴史や伝統文化、地域の産業、豊富な観光資源等の地域の魅力についての学び</li> <li>○ これからの諏訪地域を支える医療、福祉、行政、教育等の担い手の育成につながる学び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の多様な進路希望や興味関心に応じた科目選択や入学年度を超えた学びあいなどを可能にする単位制を導入</li> <li>○ 地域の特色あるスポーツや地域活動にも積極的に取り組むことができるカリキュラム</li> <li>○ 実践的な英語力を共通のベースに、地域の課題をグローバルな視点で探究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校生のうちから、主権者として、地域づくり、社会づくりに関わられるような教育内容にしてほしい。</li> <li>○ 一人ひとりの生徒の個性を引き出し、それを進路選択に繋げていくような教育内容を考えてほしい。</li> <li>○ 「グローバルな視点、ローカルな学び」に魅力を感じる。</li> <li>○ 両校の良さを活かしながら、英語や情報について深く学べるような学校。</li> <li>○ 探究以外にもうひとつ特色がほしい。</li> <li>○ <b>いろいろな選択肢を持たせて多様な学びや、好きなことをとことん追求できる学びをしていくために、単位制の高校がよいのではないか。</b></li> </ul>
地域連携・シーム		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校の出口も意識しつつ、生徒の自主性を最大限大事にした学校。そのために、社会や地域の小中学校との連携という視点も大事にできるとよい。</li> <li>○ 新校にも岡谷東高校で組織されているPTSに地域を加えてPTSC&lt;Parent（保護者） Teacher（先生） Student（生徒） Community（地域）&gt;とし、学校運営に参画する組織を作りたい。</li> <li>○ 地域資源を用いて地域と連携して学び、それを自分の武器にして進路を実現できるとよい。</li> <li>○ <b>地域の方々に学校に呼び込む、学校から地域に出ていく、これを両輪とした「ひらかれた学校」になるとよい。</b></li> </ul>
学びの環境・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的な学びによって自己の可能性を広げる</li> <li>○ 多くの仲間たちと切磋琢磨できる規模の大きな学校</li> <li>○ 留学や国際交流を通じて国際感覚を養う学びの機会をより一層取り入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 留学生の積極的受け入れなどによる国際感覚を醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある子どもが共に学ぶ、インクルーシブな学校。</li> <li>○ 学びの土壌づくりが大切。</li> <li>○ 地元に着定するようにするために、地域のことを教えられる先生・教育が必要。</li> <li>○ 教育移住という観点からも考えてみたらどうか。</li> </ul>

## グループに分かれての意見交換

### <本日のテーマ>

#### 1 「前回の意見交換を踏まえて、岡谷新校ではどのような学びを展開したらよいか」(約20分)

\*学びの内容について、できるだけ具体的な提案、提言をお願いします。

\*実現可能、不可能ということは考慮せず、「こんなことができたらいいな」という視点を大事にしてください。

#### 2 「岡谷新校での学びに地域はどのように関わっていったらよいか」(約20分)

\*テーマ1同様、具体的な提案、提言をお願いします。

\*実現可能、不可能ということは考慮せず、「こんなことができたらいいな」、「こんなことができそうだ」という視点を大事にしてください。

### ○ 参考資料

- ・ 第4回岡谷新校再編実施計画懇話会のまとめ(1~2ページ)
- ・ ここまでの意見のまとめ(3ページ)

### 【メモ】

## 意見の共有

### 【各グループからの意見】

#### ○1グループ

<岡谷新校でどのような学びを展開したらよいか>

<岡谷新校の学びに地域はどのように関わっていったらよいか>

#### ○2グループ

<岡谷新校でどのような学びを展開したらよいか>

<岡谷新校の学びに地域はどのように関わっていったらよいか>

#### ○3グループ

<岡谷新校でどのような学びを展開したらよいか>

<岡谷新校の学びに地域はどのように関わっていったらよいか>

#### ○4グループ

<岡谷新校でどのような学びを展開したらよいか>

<岡谷新校の学びに地域はどのように関わっていったらよいか>

### 【ご自分の考えのまとめ】 \*全体での討議に向けて